

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成19年6月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成19年5月分(平成19年4月30日～6月3日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	532	0.93	0.90	↓	12	ヘルパンギーナ	279	0.78	0.37	↑
2	RSウイルス感染症	30	0.08	-	↘	13	麻疹	25	0.07	0.02	↑
3	咽頭結膜熱	286	0.79	0.41	↑	14	流行性耳下腺炎	65	0.18	1.17	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	780	2.17	1.15	↗	15	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.03	
5	感染性胃腸炎	2,167	6.02	5.45	↗	16	流行性角結膜炎	98	1.03	1.28	↗
6	水痘	704	1.96	1.92	↗	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	105	0.29	0.72	↑	18	無菌性髄膜炎	3	0.03	0.06	
8	伝染性紅斑	90	0.25	0.27	↗	19	マイコプラズマ肺炎	39	0.37	0.17	↗
9	突発性発しん	210	0.58	0.63	↗	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	7	0.02	0.01		21	成人麻疹	8	0.08	0.00	
11	風しん	2	0.01	0.02		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成19年5月分(5月1日～5月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	54	2.35	2.08	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	108	5.14	4.81	→
23	性器ヘルペスウイルス感染症	28	1.22	0.55	↑	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	30	1.43	2.65	↘
24	尖圭コンジローマ	23	1.00	0.53	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.24	0.37	
25	淋菌感染症	31	1.35	0.72	→	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急減 インフルエンザ (3,852件 532件)
 急増 咽頭結膜熱 (127件 286件)
 急増 手足口病 (43件 105件)
 急増 ヘルパンギーナ (56件 279件)
 急増 麻疹 (2件 25件)
 急増 性器ヘルペスウイルス感染症 (14件 28件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑ ↓	1:2以上の増減
増減	↗ ↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗ ↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～14	15,16	22～25	17～21,26～28	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	54	結核〔広島市保健所(19), 呉市保健所(4), 福山市保健所(11), 広島地域保健所(4) 芸北地域保健所(1), 東広島地域保健所(2), 尾三地域保健所(10), 備北地域保健所(3)〕
三類	6	細菌性赤痢(1)〔広島市保健所〕 腸管出血性大腸菌感染症(5)〔(O157)広島市保健所(2), 尾三地域保健所(1) (O111)広島市保健所(1), (O119)広島地域保健所(1)〕
四類	2	レジオネラ症(2)〔広島市保健所〕
五類全数	5	ウイルス性肝炎(B型)(2)〔福山市保健所〕 クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔福山市保健所〕 後天性免疫不全症候群(1)〔福山市保健所〕 梅毒(1)〔東広島地域保健所〕

3 一般情報

(1) 麻しんの流行について

国の発生動向調査によると、全国3,000箇所の小児科定点からの麻しんの報告が第13週以降増加しており、第21週(5月21日から27日)の患者報告数は215件で流行が続いています。県別では、千葉県32, 東京都23, 神奈川県21, 宮城県17と関東地方が多くなっています。同週の広島県の報告は6件ありました。引き続き、今後の流行状況に注意が必要です。

病原体	麻しんウイルス 人から人へ感染し、感染力がきわめて強いウイルスです。
症状	感染すると10～12日の潜伏期間を経て、38度前後の発熱が2～4日続き、咳、鼻水、結膜充血などの症状が現れます。 38度前後の発熱が一度治まりかけたかと思うとまた39～40度の高熱となり、発しんが耳の後ろあたりから出はじめ、首や顔、体全体に現れます。2～5日続き、咳、鼻水、結膜充血などの症状が現れます。発しんが現れる前に、口中の頬の粘膜に約1mmの白い斑点(コプリック斑)が現れるのが特徴です。 発熱は、3～4日で治まり、次第に発しんもなくなります。しばらく色素沈着が残ります。合併症として、肺炎、脳炎、中耳炎、気管支炎などがあります。
感染経路	患者のせきやくしゃみなどからの飛沫感染や患者との接触により感染します。また、鼻やのどの分泌物に汚染された物からの間接的な接触による感染もあります。
予防方法	予防接種を受けることが効果的な予防法です。 麻しんワクチンの予防接種は、昭和53年からの定期の予防接種として実施されており、平成18年4月から生後12～24か月の間と、小学校入学前の年に2回接種を受けるように改正されました。患者の中で1歳代の子どもの割合が高いことから、1歳になったらなるべく早期に予防接種を受けることが大切です。

麻しんの定期予防接種

接種時期	第1期 生後12月から24月未満 第2期 小学校就学前の1年間
接種できるワクチン	麻しん風しん混合ワクチン(推奨勧奨) 麻しんワクチン, 風しんワクチン(既往歴等により)

(2) 手足口病について

手足口病は、口腔粘膜、手、足などの水疱性発疹を主症状とした、乳幼児を中心に夏季に流行する急性ウイルス性感染症です。

病原体	コクサッキーウイルス エンテロウイルス
症状	感染から3～5日の潜伏期間の後に、口腔粘膜、手、足などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が現れます。発熱は軽く、通常高熱が続くことはありません。基本的には、数日間で治癒する予後良好の感染症です。 まれに重症化や合併症を伴う場合があり、特にエンテロウイルスに感染した場合は、髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を生ずることが比較的多いので注意が必要です。
感染経路	飛沫感染、接触感染、糞口感染で、主症状が回復した後も比較的長期間にわたって、便などからウイルスが排泄されることがあるが、基本的には軽症疾患なので、保育園や幼稚園などを休む必要はない。
予防方法	手洗いの励行、排泄物の適正な処理